

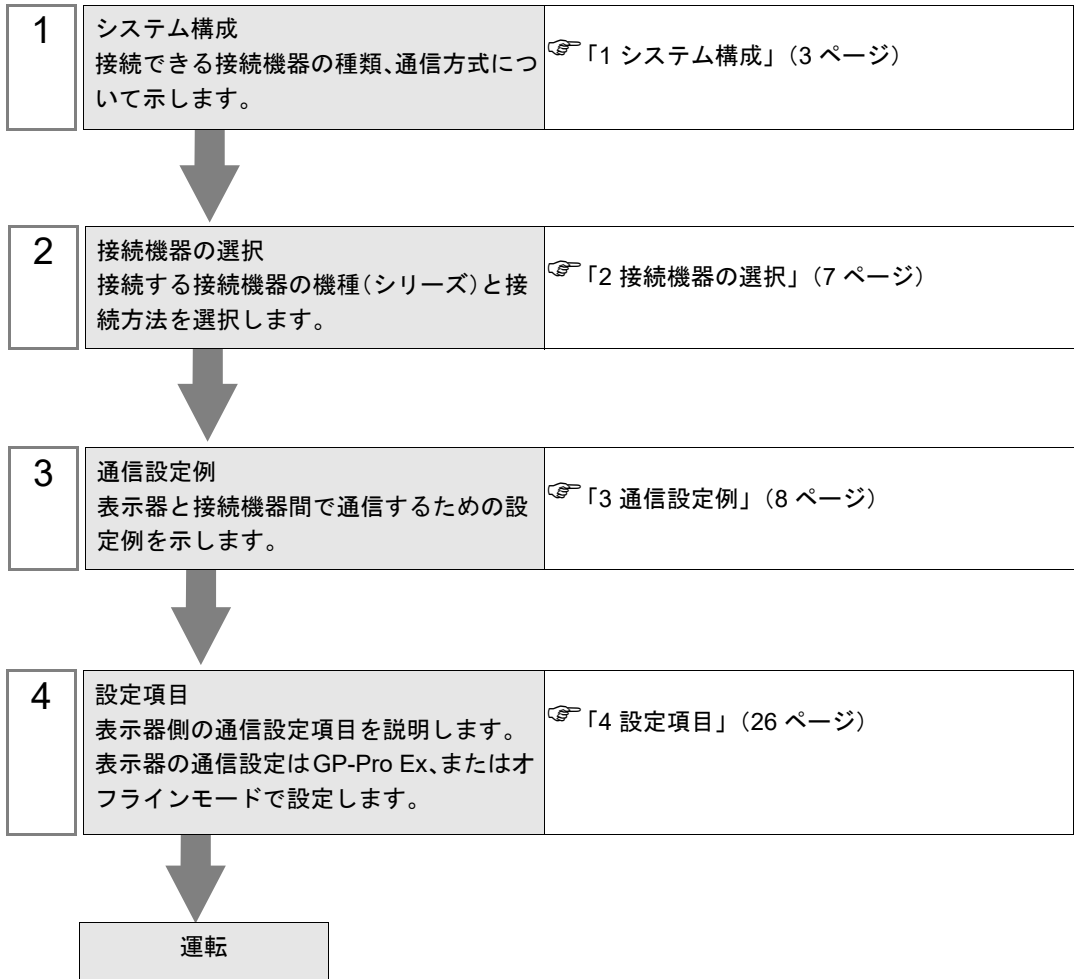
iQ-R/F イーサネット (SLMP Client) ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択.....	7
3	通信設定例.....	8
4	設定項目.....	26
5	使用可能デバイス.....	34
6	デバイスコードとアドレスコード.....	47
7	エラーメッセージ.....	52

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



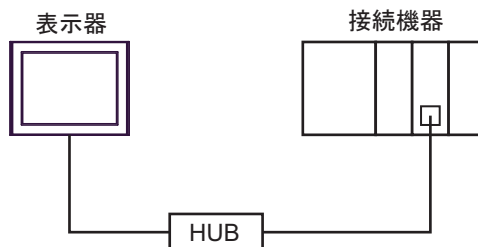
1 システム構成

三菱電機（株）製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

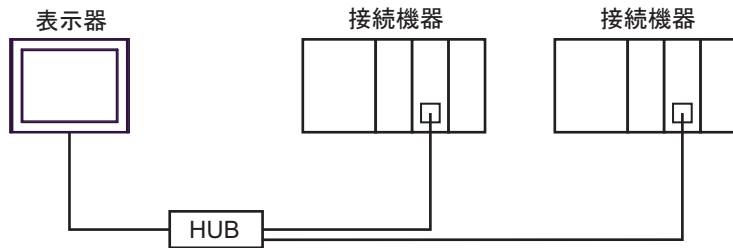
シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
iQ-R シリーズ	R00CPU R01CPU R02CPU R04CPU R08CPU R16CPU R32CPU R120CPU R04ENCPU R08ENCPU R16ENCPU R32ENCPU R120ENCPU R08PCPU R16PCPU R32PCPU R120PCPU R08SFCPU R16SFCPU R32SFCPU R120SFCPU R08PSFCPU R16PSFCPU R32PSFCPU R120PSFCPU	CPU ユニット上の Ethernet ポート	イーサネット (UDP)	設定例 1 (8 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 2 (11 ページ)
		RJ71EN71	イーサネット (UDP)	設定例 3 (14 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 4 (17 ページ)
iQ-F シリーズ	FX5UCPU FX5UCCPU FX5UJCPU	CPU ユニット上の Ethernet ポート	イーサネット (UDP)	設定例 5 (20 ページ)
			イーサネット (TCP)	設定例 6 (23 ページ)

接続構成

- 1:1 接続

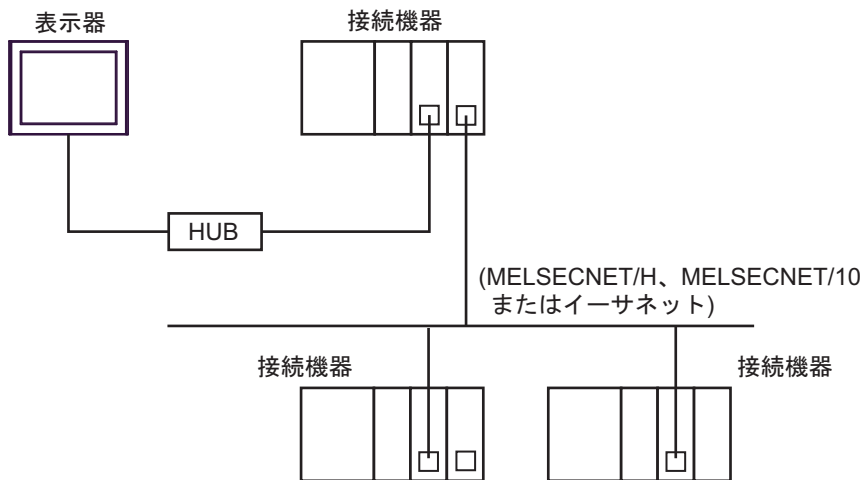


- 1:n 接続

**MEMO**

- 接続機器の最大接続台数は次のとおりです。
TCP/IP 接続時：最大 16 台
UDP/IP 接続時：最大 32 台

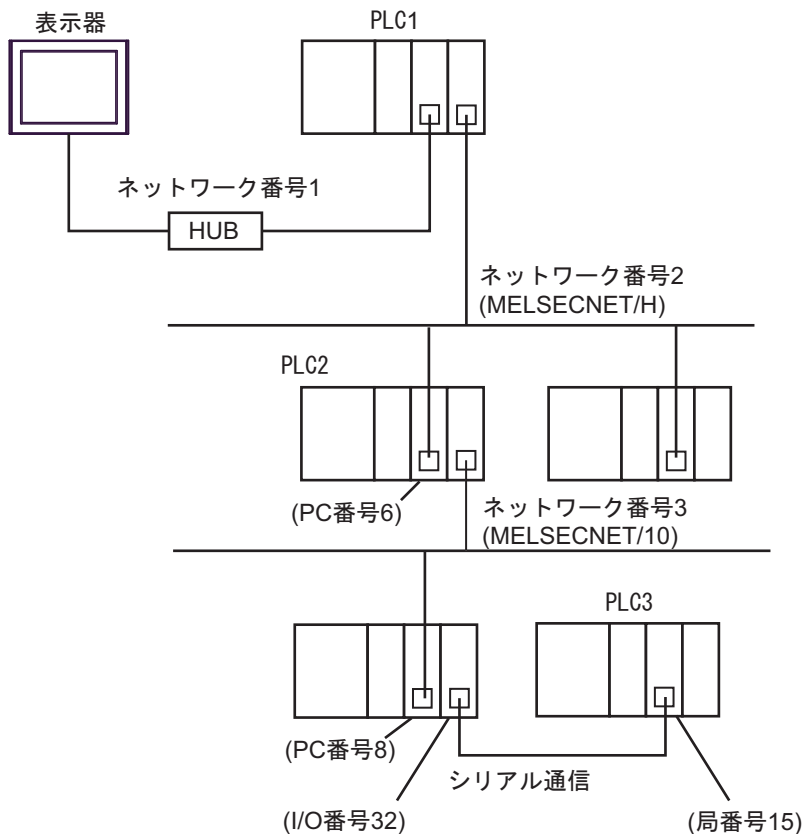
- 1:n 接続 (iQ-R シリーズを中継してネットワークを経由する場合)

**MEMO**

- ネットワークを経由して通信する場合、タイムアウトの設定は中継局の応答監視時間よりも大きな値を設定してください。
- 接続機器の最大接続台数は次のとおりです。
TCP/IP 接続時：最大 16 台
UDP/IP 接続時：最大 32 台

ネットワークを経由する場合の設定例を以下に示します。設定項目の詳細は「設定項目」で確認してください。

☞ 「4 設定項目」(26 ページ)



通信設定

	IP アドレス	ポート番号
表示器	192.168.1.1	1025

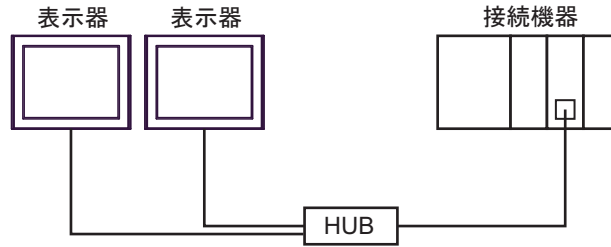
[個別機器設定] ダイアログボックス

アクセス先の 接続機器	IP アドレス*1	ポート番号*2	ネットワーク 番号	PC 番号	要求先ユニット の I/O 番号	要求先ユニット の局番号
PLC1	192.168.1.2	1025	0	255	1023	0
PLC2	192.168.1.2	1026	2	6	1023	0
PLC3	192.168.1.2	1027	3	8	32	15

*1 中継局 (PLC1) の IP アドレスを設定します。

*2 設定したポート番号は中継局 (PLC1) でオープンにする必要があります。

- n:1 接続

**MEMO**

- 表示器の最大接続台数は次のとおりです。

iQ-R シリーズ

CPU ユニット上の Ethernet ポートの場合：最大 16 台

RJ71EN71 の場合：最大 64 台

iQ-F シリーズ：最大 8 台

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1～4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「三菱電機(株)」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種(シリーズ)と接続方法を選択します。「iQ-R/F イーサネット (SLMP Client)」を選択します。 「iQ-R/F イーサネット (SLMP Client)」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」(3 ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを「イーサネット (UDP)」「イーサネット (TCP)」から選択します。
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス(メモリ)を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照: GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照: GP-Pro EX リファレンスマニュアル「システム設定 [本体設定] - [システムエリア設定] の設定ガイド」 参照: 保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー 三菱電機(株) シリーズ iQ-R/Fイーサネット(SLMP Client) ポート イーサネット(UDP)

文字列データモード 2 [変更](#)

通信設定

ポート番号 1025

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms) [初期設定](#)


機器別設定

接続可能台数 32台 [機器を追加](#) [接続可能台数の拡張](#)

No	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=iQ-R,IPアドレス=192.168.003.039,ポート番号:

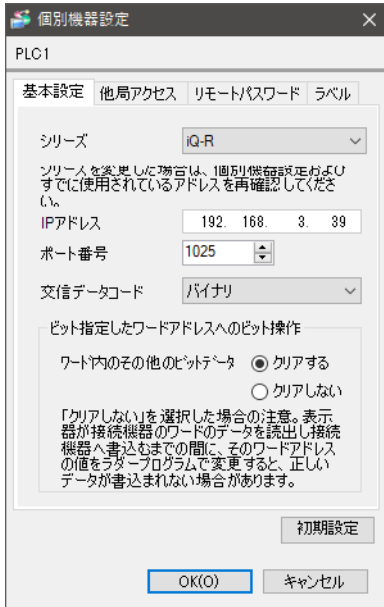
間接機器追加

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

[基本設定] タブ



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

シリアル iQ-R

シリーズを変更した場合は、個別機器設定を必ずすでに使用されているアドレスを再確認してください。

IPアドレス 192.168.3.39

ポート番号 1025

通信データコード バイナリ

ビット指定したワードアドレスへのビット操作

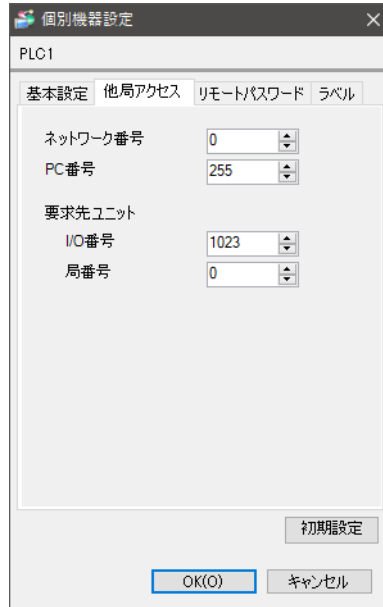
ワード内のその他のビットデータ クリアする
 クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書込みまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル

[他局アクセス] タブ



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

ネットワーク番号 0

PC番号 255

要求先ユニット

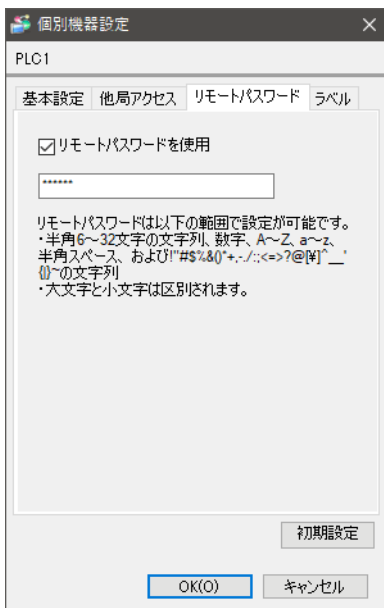
I/O番号 1023

局番号 0

初期設定

OK(O) キャンセル

[リモートパスワード] タブ



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

リモートパスワードを使用

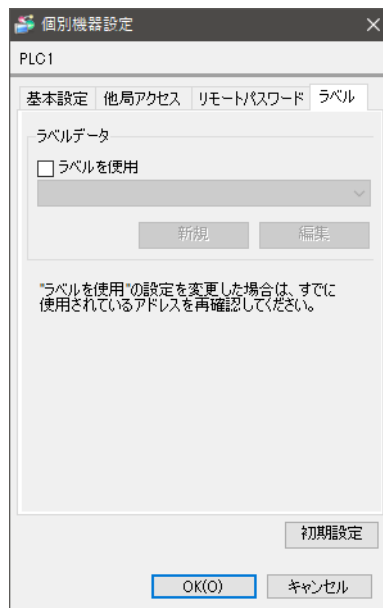
リモートパスワードは以下の範囲で設定が可能です。

- ・半角6～32文字の文字列、数字、A～Z、a～z、半角スペース、および"#\$%&'*+,-./:<>?@[|^_`" の文字列
- ・大文字と小文字は区別されます。

初期設定

OK(O) キャンセル

[ラベル] タブ



個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

ラベルデータ

ラベルを使用

新規 編集

「ラベルを使用」の設定を変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

初期設定

OK(O) キャンセル

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はプログラミングソフト (MELSOFT GX Works3) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 プログラミングソフトを起動します。
- 2 対象となる CPU の [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウを開きます。
- 3 [基本設定] の [自ノード設定] で以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス	192.168.3.39
サブネットマスク	255.255.255.0
RUN 中の書込み許可 / 禁止設定	一括で許可する (SLMP)
交信データコード	バイナリ
オープン方法の設定	プログラムで OPEN しない

- 4 [相手機器接続構成設定] の [詳細設定] をクリックし [Ethernet 構成] ウィンドウを開きます。
- 5 [ユニット一覧] ウィンドウの [Ethernet 機器 (汎用)] から [SLMP 接続機器] を選択し、設定画面へドラッグアンドドロップします。
- 6 設定画面の [SLMP 接続機器] に以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
プロトコル	UDP
シーケンサ ポート番号	1025
生存確認	UDP

- 7 設定内容を保存し [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウの [適用] をクリックします。
- 8 プロジェクトを保存し、接続機器に書込みます。
[ユニットパラメータ] がチェックされていることを確認してください。
- 9 接続機器の電源を OFF/ON するかまたは変更が有効であることを確認するためにリセットします。

◆ 注意事項

IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から[機器を追加]をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

[基本設定] タブ

[他局アクセス] タブ

[リモートパスワード] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

リモートパスワードを使用

リモートパスワードは以下の範囲で設定が可能です。
 ・半角6～32文字の文字列、数字、A～Z、a～z、
 半角スペース、および!#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~
 の文字列
 ・大文字と小文字は区別されます。

初期設定

OK(O) キャンセル

[ラベル] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

ラベルデータ

ラベルを使用

新規 編集

初期設定

OK(O) キャンセル

*ラベルを使用の設定を変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はプログラミングソフト (MELSOFT GX Works3) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 プログラミングソフトを起動します。
- 2 対象となる CPU の [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウを開きます。
- 3 [基本設定] の [自ノード設定] で以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス	192.168.3.39
サブネットマスク	255.255.255.0
RUN 中の書込み許可 / 禁止設定	一括で許可する (SLMP)
交信データコード	バイナリ
オープン方法の設定	プログラムで OPEN しない

- 4 [相手機器接続構成設定] の [詳細設定] をクリックし [Ethernet 構成] ウィンドウを開きます。
- 5 [ユニット一覧] ウィンドウの [Ethernet 機器 (汎用)] から [SLMP 接続機器] を選択し、設定画面へドラッグアンドドロップします。
- 6 設定画面の [SLMP 接続機器] に以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
プロトコル	TCP
シーケンサ ポート番号	1025
生存確認	KeepAlive(Default)

- 7 設定内容を保存し [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウの [適用] をクリックします。
- 8 プロジェクトを保存し、接続機器に書込みます。
[ユニットパラメータ] がチェックされていることを確認してください。
- 9 接続機器の電源を OFF/ON するかまたは変更が有効であることを確認するためにリセットします。

◆ 注意事項

IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

◆ 機器設定

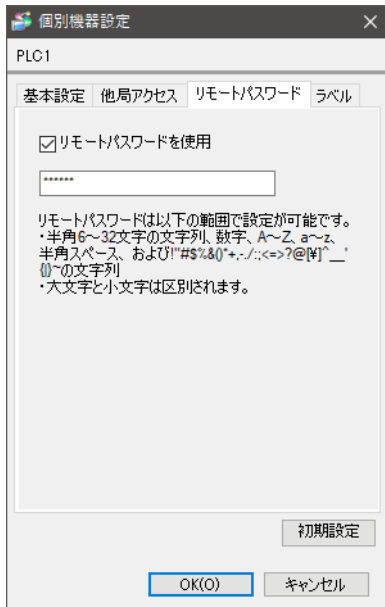
設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から[機器を追加]をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

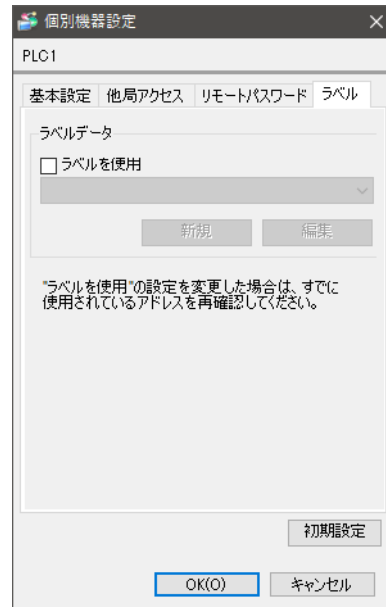
[基本設定] タブ

[他局アクセス] タブ

[リモートパスワード] タブ



[ラベル] タブ



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はプログラミングソフト (MELSOFT GX Works3) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 プログラミングソフトを起動します。
- 2 ナビゲーションウィンドウの [ユニット情報] から対象となるリンク I/F の [ポート 1 ユニットパラメータ] 設定ウィンドウを開きます。
- 3 [基本設定] の [自ノード設定] で以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス	192.168.3.40
サブネットマスク	255.255.255.0
RUN 中の書き込み許可 / 禁止設定	一括で許可する (SLMP)
交信データコード	バイナリ
オープン方法の設定	プログラムで OPEN しない
ネットワーク No./ 局番による交信	無効

- 4 [相手機器接続構成設定] の [詳細設定] をクリックし [Ethernet 構成] ウィンドウを開きます。
- 5 [ユニット一覧] ウィンドウの [Ethernet 機器 (汎用)] から [SLMP 接続機器] を選択し、設定画面へドラッグアンドドロップします。
- 6 設定画面の [SLMP 接続機器] に以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
プロトコル	UDP
シーケンサポート番号	1025
生存確認	UDP

- 7 設定内容を保存し [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウの [適用] をクリックします。
- 8 プロジェクトを保存し、接続機器に書込みます。
[ユニットパラメータ] がチェックされていることを確認してください。
- 9 接続機器の電源を OFF/ON するかまたは変更が有効であることを確認するためにリセットします。

◆ 注意事項

IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。


3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から[機器を追加]をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

[基本設定] タブ

[他局アクセス] タブ

[リモートパスワード] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

リモートパスワードを使用

リモートパスワードは以下の範囲で設定が可能です。
 ・半角6～32文字の文字列、数字、A～Z、a～z、
 半角スペース、および「# \$ % & ' * + , - . / : ; < > ? @ [\] ^ _ ` { | } ~」
 の文字列
 ・大文字と小文字は区別されます。

初期設定

OK(O) キャンセル

[ラベル] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

ラベルデータ

ラベルを使用

新規 編集

初期設定

OK(O) キャンセル

*ラベルを使用の設定を変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はプログラミングソフト (MELSOFT GX Works3) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 プログラミングソフトを起動します。
- 2 ナビゲーションウィンドウの [ユニット情報] から対象となるリンク I/F の [ポート 1 ユニットパラメータ] 設定ウィンドウを開きます。
- 3 [基本設定] の [自ノード設定] で以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス	192.168.3.40
サブネットマスク	255.255.255.0
RUN 中の書き込み許可 / 禁止設定	一括で許可する (SLMP)
交信データコード	バイナリ
オープン方法の設定	プログラムで OPEN しない
ネットワーク No./ 局番による交信	無効

- 4 [相手機器接続構成設定] の [詳細設定] をクリックし [Ethernet 構成] ウィンドウを開きます。
- 5 [ユニット一覧] ウィンドウの [Ethernet 機器 (汎用)] から [SLMP 接続機器] を選択し、設定画面へドラッグアンドドロップします。
- 6 設定画面の [SLMP 接続機器] に以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
プロトコル	TCP
シーケンサポート番号	1025
生存確認	KeepAlive(Default)

- 7 設定内容を保存し [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウの [適用] をクリックします。
- 8 プロジェクトを保存し、接続機器に書込みます。
[ユニットパラメータ] がチェックされていることを確認してください。
- 9 接続機器の電源を OFF/ON するかまたは変更が有効であることを確認するためにリセットします。

◆ 注意事項

IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。


3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

◆ 機器設定

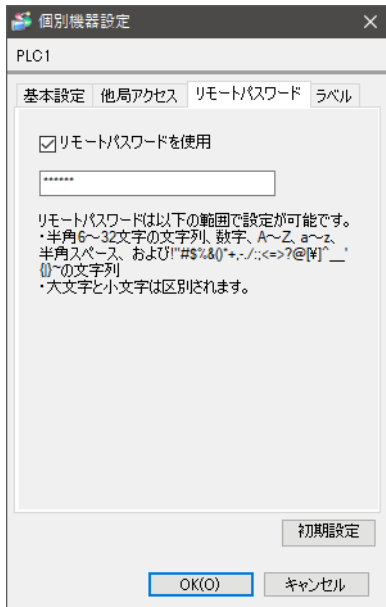
設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から[機器を追加]をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

[基本設定] タブ

[他局アクセス] タブ

[リモートパスワード] タブ



[ラベル] タブ



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はプログラミングソフト (MELSOFT GX Works3) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 プログラミングソフトを起動します。
- 2 対象となる CPU の [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウを開きます。
- 3 [基本設定] の [自ノード設定] で以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス	192.168.3.250
サブネットマスク	255.255.255.0
交信データコード	バイナリ

- 4 [相手機器接続構成設定] の [詳細設定] をクリックし [Ethernet 構成] ウィンドウを開きます。
- 5 [ユニット一覧] ウィンドウの [Ethernet 機器 (汎用)] から [SLMP 接続機器] を選択し、設定画面へドラッグアンドドロップします。
- 6 設定画面の [SLMP 接続機器] に以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
プロトコル	UDP
シーケンサ ポート番号	1025
センサ・機器 IP アドレス	192.168.3.10 (表示器の IP アドレス)

- 7 設定内容を保存し [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウの [適用] をクリックします。
- 8 プロジェクトを保存し、接続機器に書込みます。
[ユニットパラメータ] がチェックされていることを確認してください。
- 9 接続機器の電源を OFF/ON するかまたは変更が有効であることを確認するためにリセットします。

◆ 注意事項

IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 接続機器変更

メーカー 三菱電機(株) シリーズ iQ-R/Fイーサネット(SLMP Client) ポート イーサネット(TCP)

文字列データモード 2 変更

通信設定

ポート番号 1025

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms) 初期設定

機器別設定

接続可能台数 32台 機器を追加 接続可能台数の拡張

No	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=iQ-F,IPアドレス=192.168.003.250,ポート番号=	

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定]の[機器別設定]から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定]の[機器別設定]から[機器を追加]をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

[基本設定] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

シリーズ iQ-F

シリーズを変更した場合は、個別機器設定をおよぼす前に使用されているアドレスを再確認してください。

IPアドレス 192.168.3.250

ポート番号 1025

通信データコード バイナリ

ビット指定したワードアドレスへのビット操作

ワード内のその他のビットデータ クリアする クリアしない

「クリアしない」を選択した場合の注意。表示器が接続機器のワードのデータを読み出し接続機器へ書込みまでの間に、そのワードアドレスの値をラダープログラムで変更すると、正しいデータが書込まれない場合があります。

初期設定

OK(O) キャンセル

[他局アクセス] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

ネットワーク番号 0

PC番号 255

要求先ユニット

I/O番号 1023

局番号 0

初期設定

OK(O) キャンセル

[リモートパスワード] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

リモートパスワードを使用

リモートパスワードは以下の範囲で設定が可能です。
 ・半角6～32文字の文字列、数字、A～Z、a～z、
 半角スペース、および!#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[\\]^_`{|}~
 の文字列
 ・大文字と小文字は区別されます。

初期設定

OK(O) キャンセル

[ラベル] タブ

個別機器設定

PLC1

基本設定 他局アクセス リモートパスワード ラベル

ラベルデータ

ラベルを使用

▼

新規 編集

ラベルを使用の設定を変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

初期設定

OK(O) キャンセル

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

接続機器の通信設定はプログラミングソフト (MELSOFT GX Works3) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 プログラミングソフトを起動します。
- 2 対象となる CPU の [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウを開きます。
- 3 [基本設定] の [自ノード設定] で以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス	192.168.3.250
サブネットマスク	255.255.255.0
交信データコード	バイナリ

- 4 [相手機器接続構成設定] の [詳細設定] をクリックし [Ethernet 構成] ウィンドウを開きます。
- 5 [ユニット一覧] ウィンドウの [Ethernet 機器 (汎用)] から [SLMP 接続機器] を選択し、設定画面へドラッグアンドドロップします。
- 6 設定画面の [SLMP 接続機器] に以下の設定を行います。

設定項目	設定内容
プロトコル	TCP
シーケンサポート番号	1025

- 7 設定内容を保存し [ユニットパラメータ] 設定ウィンドウの [適用] をクリックします。
- 8 プロジェクトを保存し、接続機器に書込みます。
[ユニットパラメータ] がチェックされていることを確認してください。
- 9 接続機器の電源を OFF/ON するかまたは変更が有効であることを確認するためにリセットします。

◆ 注意事項

IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(8 ページ)

MEMO • 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「イーサネット設定」

4.1 GP-PRO EX での設定

■ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。


No	機器名	設定	間接機器 追加
1	PLC1	シリーズ=iQ-R、IPアドレス=192.168.003.039、ポート番号=	

設定項目	設定内容
ポート番号	表示器のポート番号を「1025～65535」で入力します。[自動割当]にチェックを入れた場合、ポート番号は自動で設定されます。 MEMO • [自動割当]は[接続方法]で「イーサネット (TCP)」を選択した場合のみ設定できます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1～127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0～255」で入力します。

MEMO • 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

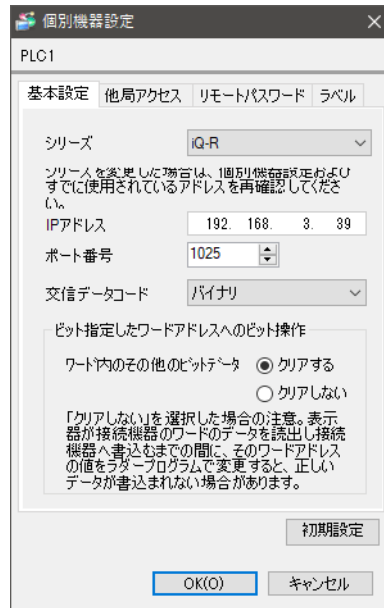
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい (間接機器指定)」

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

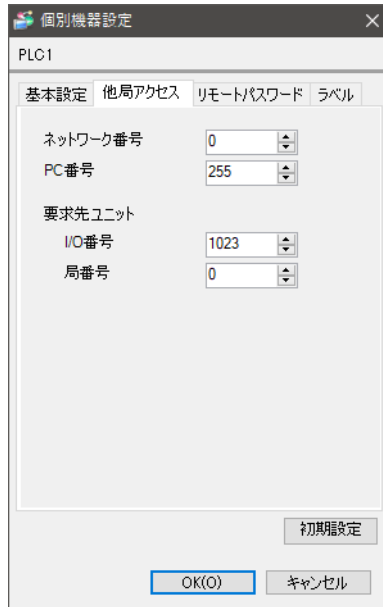
複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ [基本設定] タブ



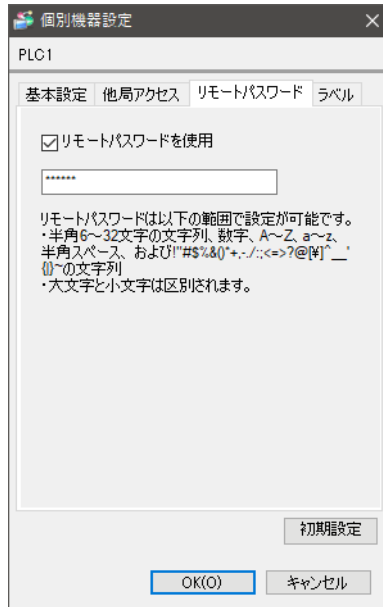
設定項目	設定内容						
シリーズ	接続機器のシリーズを設定します。						
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。 						
ポート番号	接続機器のポート番号を「1025 ～ 65535」で入力します。						
通信データコード	<p>通信データの形式を選択します。 選択したシリーズにより選択できる形式が異なります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>iQ-R シリーズ</td> <td>「バイナリ」または「ASCII」</td> </tr> <tr> <td>iQ-F シリーズ</td> <td>「バイナリ」、「ASCII(XY 8 進数)」または「ASCII(XY 16 進数)」</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	コード	iQ-R シリーズ	「バイナリ」または「ASCII」	iQ-F シリーズ	「バイナリ」、「ASCII(XY 8 進数)」または「ASCII(XY 16 進数)」
シリーズ	コード						
iQ-R シリーズ	「バイナリ」または「ASCII」						
iQ-F シリーズ	「バイナリ」、「ASCII(XY 8 進数)」または「ASCII(XY 16 進数)」						
ワード内のその他のビットデータ	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」「クリアしない」から選択します。						

◆ [他局アクセス] タブ



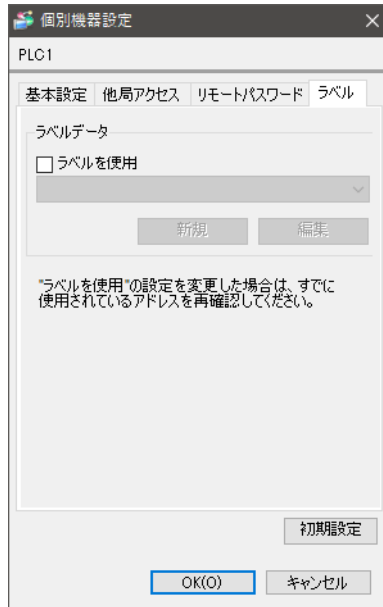
設定項目	設定内容
ネットワーク番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器のネットワーク番号を「0～239」、「254」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「0」を入力します。
PC番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器のPC番号を「0～120」、「125～126」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「255」を入力します。
I/O番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器のI/O番号を「0～511」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「1023」を入力します。
局番号	接続機器の局番号を「0～31」で設定します。

◆ [リモートパスワード] タブ



設定項目	設定内容
リモートパスワードを使用	リモートパスワードを使用する場合にチェックを付け、リモートパスワードを入力します。

◆ [ラベル] タブ



設定項目	設定内容
ラベルを使用	ラベルデータ（シンボルアドレス）を使用する場合にチェックを付け、使用するラベルデータを選択します。 「5.3 MELSEC iQ-R シリーズ（ラベル）」（39 ページ）

MEMO

- iQ-F シリーズを選択した場合、ラベルデータは使用できません。
- GP-4100 シリーズを選択した場合、ラベルデータは使用できません。

4.2 オフライン画面での設定

MEMO • オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定			
iQ-R/Fイーサネット(SLMP Client) [UDP] Page 1/1				
ポート番号	<input checked="" type="radio"/> 固定 <input type="radio"/> 自動	1025 ▼ ▲		
タイムアウト(s)		3 ▼ ▲		
リトライ		2 ▼ ▲		
送信ウェイト(ms)		0 ▼ ▲		
終了		戻る		2022/12/04 11:49:32

設定項目	設定内容
ポート番号	表示器のポート番号を設定します。 UDP 接続では「固定」「自動」の選択に関わらず、入力したポート番号が割り当てられます。 TCP 接続では「固定」「自動」のいずれかを選択します。「固定」を選択した場合は表示器のポート番号を「1025 ~ 65535」で入力します。「自動」を選択した場合は入力した値に関わらず自動的に割り当てられます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。

■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

(1/2 ページ)

通信設定	機器設定			
iQ-R/Fイーサネット(SLMP Client)		[UDP]	Page 1/2	
接続機器名 <input type="text" value="PLC1"/>				
シリーズ		iQ-R		
IPアドレス		<input type="text" value="192 168 0 1"/>		
ポート番号		<input type="text" value="1025"/>		
交信データコード		バイナリ		
ネットワーク番号		<input type="text" value="0"/>		
PC番号		<input type="text" value="255"/>		
要求先ユニット				
I/O番号		<input type="text" value="1023"/>		
局番号		<input type="text" value="0"/>		
リモートパスワード		<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する		
		<input type="text"/>		
		<input type="button" value="→"/>		
		<input type="button" value="終了"/>		<input type="button" value="戻る"/>
				2022/12/04 11:50:17

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
ポート番号	接続機器のポート番号を「1025～65535」で入力します。
交信データコード	交信データの形式を表示します。
ネットワーク番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器のネットワーク番号を「0～239」、「254」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「0」を入力します。
PC 番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の PC 番号を「0～120」、「125～126」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「255」を入力します。
I/O 番号	ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の I/O 番号を「0～511」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「1023」を入力します。
局番号	接続機器の局番号を「0～31」で設定します。
リモートパスワード	リモートパスワードを使用するかしないかを設定します。使用する場合はリモートパスワードを入力します。

(2/2 ページ)


通信設定	機器設定			
iQ-R/Fイーサネット(SLMP Client)		[UDP]	Page 2/2	
接続機器名		PLC1		
ビット指定したワードアドレスへのビット操作				
他のビット		クリアする		
				←
終了		戻る		2022/12/04 11:50:25

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
ビット指定したワードアドレスへのビット操作	ビット指定したワードアドレスへビット操作をした場合の、同一ワード内のその他のビットデータの扱いを「クリアする」、「クリアしない」で表示します。(オフラインモードでは設定できません。)

5 使用可能デバイス


使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

5.1 MELSEC iQ-R シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	X0000 ~ X2FFF	X0000 ~ X2FF0	[L/H]	 *1
出力リレー	Y0000 ~ Y2FFF	Y0000 ~ Y2FF0		 *2
内部リレー	M00000000 ~ M99999999	M00000000 ~ M99999984		
特殊リレー	SM0000 ~ SM4095	SM0000 ~ SM4080		
保持リレー	L00000 ~ L32767	L000000 ~ L32752		
アナンシェータ	F00000 ~ F32767	F00000 ~ F32752		
エッジリレー	V00000 ~ V32767	V00000 ~ V32752		
リンクリレー	B0000000 ~ B9A61FFF	B0000000 ~ B9A61FF0		
特殊リンクリレー	SB0000000 ~ SB9A61FFF	SB0000000 ~ SB9A61FF0		
タイマ (接点)	TS0000000 ~ TS8993439	-		
タイマ (コイル)	TC0000000 ~ TC8993439	-		
積算タイマ (接点)	SS0000000 ~ SS8993439	-		
積算タイマ (コイル)	SC0000000 ~ SC8993439	-		
カウンタ (接点)	CS0000000 ~ CS8993439	-		
カウンタ (コイル)	CC0000000 ~ CC8993439	-		
タイマ (現在値)	-	TN0000000 ~ TN8993439		
積算タイマ (現在値)	-	SN0000000 ~ SN8993439		
ロングタイマ (現在値)	-	L_TN0000000 ~ L_TN2529407		
ロング積算タイマ (現在値)	-	L_SN0000000 ~ L_SN2529407		
カウンタ (現在値)	-	CN0000000 ~ CN8993439		
ロングカウンタ (現在値)	-	L_CN0000000 ~ L_CN4761215		
データレジスタ	-	 D00000000 ~ D10117631		 *3
特殊レジスタ	-	SD0000 ~ SD4095		 *3
リンクレジスタ	-	W000000 ~ W9A61FF		 *3
特殊リンクレジスタ	-	SW000000 ~ SW9A61FF		 *3
リンク入力	J001-X0000 ~ J255-X3FFF	J001-X0000 ~ J255-X3FF0		 *4
リンク出力	J001-Y0000 ~ J255-Y3FFF	J001-Y0000 ~ J255-Y3FF0		 *4
リンクリレー	J001-B0000 ~ J255-B7FFF	J001-B0000 ~ J255-B7FF0		 *4
リンク特殊リレー	J001-SB0000 ~ J255-SB1FFF	J001-SB0000 ~ J255-SB1FF0	 *4	

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
リンクレジスタ	-	J001-W00000 ~ J255-W1FFFF	[L/H]	 *3 *4
リンク特殊レジスタ	-	J001-SW000 ~ J255-SW1FF		 *3 *4
ユニットアクセスデバイス	-	U000-G00000000 ~ U1FF-G99999999		 *3 *5
CPU バッファメモリアクセスデバイス	-	U3E0-G00000000 ~ U3E3-G99999999		 *3 *6
CPU バッファメモリ (定周期通信エリア)	-	U3E0-HG00000 ~ U3E3-HG12287		 *3 *6
ファイルレジスタ (通常)	-	R00000 ~ R32767		 *3
ファイルレジスタ (連番)	-	ZR00000000 ~ ZR10027007		 *3
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	-	0R00000 ~ 0R32767		 *3
	-	1R00000 ~ 1R32767		 *3
	-	2R00000 ~ 2R32767		 *3
	:	:		 *3
	-	30R00000 ~ 30R32767		 *3
	-	31R00000 ~ 31R32767		 *3

- *1 CPU が R00CPU/R01CPU/R02CPU の場合、ビットアドレスは「X0000 - X1FFF」、ワードアドレスは「X0000 - X1FF0」になります。
- *2 CPU が R00CPU/R01CPU/R02CPU の場合、ビットアドレスは「Y0000 - Y1FFF」、ワードアドレスは「Y0000 - Y1FF0」になります。
- *3 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] 
 [クリアしない] ビット書き込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを讀込み、讀込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを讀込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があります。
- *4 ネットワークリンクモジュールの内部メモリにアクセスするためのリンクダイレクトデバイスです。アドレスの最初の 3 桁はネットワーク番号を示します。ネットワーク番号は 1 ~ 255 の範囲で指定します。
- *5 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の 3 桁はインテリジェントモジュールの開始 I/O 番号を指定します。
- *6 CPU バッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の 3 桁は CPU No. を示します：
 3E0H : CPU No.1
 3E1H : CPU No.2
 3E2H : CPU No.3
 3E3H : CPU No.4

MEMO


- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
























参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。


☞「表記のルール」

5.2 MELSEC iQ-R シリーズ (ネットワークを経由する場合)

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	X0000 ~ X2FFF	X0000 ~ X2FF0	L/H	 *1
出力リレー	Y0000 ~ Y2FFF	Y0000 ~ Y2FF0		 *2
内部リレー	M000000 ~ M999999	M000000 ~ M999984		 *3
特殊リレー	SM0000 ~ SM4095	SM0000 ~ SM4080		 *3
保持リレー	L00000 ~ L32767	L00000 ~ L32752		 *3
アナンシェータ	F00000 ~ F32767	F00000 ~ F32752		 *3
エッジリレー	V00000 ~ V32767	V00000 ~ V32752		 *3
リンクリレー	B000000 ~ BFFFFFF	B000000 ~ BFFFFFF0		 *3
特殊リンクリレー	SB000000 ~ SBFFFFFF	SB000000 ~ SBFFFFFF0		 *3
タイマ (接点)	TS000000 ~ TS999999	-		*3
タイマ (コイル)	TC000000 ~ TC999999	-		*3
積算タイマ (接点)	SS000000 ~ SS999999	-		*3
積算タイマ (コイル)	SC000000 ~ SC999999	-		*3
カウンタ (接点)	CS000000 ~ CS999999	-		*3
カウンタ (コイル)	CC000000 ~ CC999999	-		*3
タイマ (現在値)	-	TN000000 ~ TN999999		*3
積算タイマ (現在値)	-	SN000000 ~ SN999999		*3
カウンタ (現在値)	-	CN000000 ~ CN999999		*3
データレジスタ	-	 D000000 ~ D999999		 *3 *4
特殊レジスタ	-	SD0000 ~ SD4095		 *4
リンクレジスタ	-	W000000 ~ W9A61FF		 *4
特殊リンクレジスタ	-	SW000000 ~ SW9A61FF		 *4
リンク入力	J001-X0000 ~ J255-X3FFF	J001-X0000 ~ J255-X3FF0		 *5
リンク出力	J001-Y0000 ~ J255-Y3FFF	J001-Y0000 ~ J255-Y3FF0		 *5
リンクリレー	J001-B0000 ~ J255-B7FFF	J001-B0000 ~ J255-B7FF0		 *5
リンク特殊リレー	J001-SB0000 ~ J255-SB1FFF	J001-SB0000 ~ J255-SB1FF0		 *5
リンクレジスタ	-	J001-W00000 ~ J255-W1FFFF		 *4 *5
リンク特殊レジスタ	-	J001-SW000 ~ J255-SW1FF		 *4 *5
CPU バッファメモリ アクセスデバイス	-	U3E0-G000000 ~ U3E3-G999999	 *4 *6	
CPU バッファメモリ (定周期通信エリア)	-	U3E0-HG00000 ~ U3E3-HG12287	 *4 *6	
ファイルレジスタ	-	R00000 ~ R32767	 *4	

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
ファイルレジスタ (連番)	-	ZR00000000 ~ ZR10027007	L/H	 *4
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	-	0R00000 ~ 0R32767		 *4
	-	1R00000 ~ 1R32767		 *4
	-	2R00000 ~ 2R32767		 *4
	:	:		 *4
	-	30R00000 ~ 30R32767		 *4
	-	31R00000 ~ 31R32767		 *4

- *1 CPU が R00CPU/R01CPU/R02CPU の場合、ビットアドレスは「X0000 - X1FFF」、ワードアドレスは「X0000 - X1FFF0」になります。
- *2 CPU が R00CPU/R01CPU/R02CPU の場合、ビットアドレスは「Y0000 - Y1FFF」、ワードアドレスは「Y0000 - Y1FFF0」になります。
- *3 デバイスの範囲は制限されています。
- *4 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。
 [クリアする] 
 [クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *5 ネットワークリンクモジュールの内部メモリにアクセスするためのリンクダイレクトデバイスです。アドレスの最初の 3 桁はネットワーク番号を示します。ネットワーク番号は 1 ~ 255 の範囲で指定します。
- *6 CPU バッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の 3 桁は CPU No. を示します:
 3E0H : CPU No.1
 3E1H : CPU No.2
 3E2H : CPU No.3
 3E3H : CPU No.4

MEMO


- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。


参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.3 MELSEC iQ-R シリーズ (ラベル)

 はシステムデータエリアに指定できます。

Data Type		Bit Address	Word Address	32bits	Note
BOOL	Single Tag	<LABELNAME>			
	1D Array	<LABELNAME>[xl] ~ <LABELNAME>[xh]			*1 *2 *3
	2D Array	<LABELNAME>[xl,yl] ~ <LABELNAME>[xh,yh]			
	3D Array	<LABELNAME>[xl,yl,zl] ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh]			
INT WORD	Single Tag	<LABELNAME>.00 ~ <LABELNAME>.15	<LABELNAME>		*1 *2 *3 *4
	1D Array	<LABELNAME>[xl].00 ~ <LABELNAME>[xh].15	<LABELNAME>[xl] ~ <LABELNAME>[xh]		
	2D Array	<LABELNAME>[xl,yl].00 ~ <LABELNAME>[xh,yh].15	<LABELNAME>[xl,yl] ~ <LABELNAME>[xh,yh]		
	3D Array	<LABELNAME>[xl,yl,zl].00 ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh].15	<LABELNAME>[xl,yl,zl] ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh]		
REAL TIME	Single Tag		<LABELNAME>		*1 *2 *3
	1D Array		<LABELNAME>[xl] ~ <LABELNAME>[xh]		
	2D Array		<LABELNAME>[xl,yl] ~ <LABELNAME>[xh,yh]		
	3D Array		<LABELNAME>[xl,yl,zl] ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh]		
DINT DWORD	Single Tag	<LABELNAME>.00 ~ <LABELNAME>.31	<LABELNAME>		*1 *2 *3
	1D Array	<LABELNAME>[xl].00 ~ <LABELNAME>[xh].31	<LABELNAME>[xl] ~ <LABELNAME>[xh]		
	2D Array	<LABELNAME>[xl,yl].00 ~ <LABELNAME>[xh,yh].31	<LABELNAME>[xl,yl] ~ <LABELNAME>[xh,yh]		
	3D Array	<LABELNAME>[xl,yl,zl].00 ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh].31	<LABELNAME>[xl,yl,zl] ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh]		
STRING	Single Tag		<LABELNAME>		*1 *2 *3 *5
	1D Array		<LABELNAME>[xl] ~ <LABELNAME>[xh]		
	2D Array		<LABELNAME>[xl,yl] ~ <LABELNAME>[xh,yh]		
	3D Array		<LABELNAME>[xl,yl,zl] ~ <LABELNAME>[xh,yh,zh]		

Data Type		Bit Address	Word Address	32bits	Note
TIMER	C	<LABELNAME>.C	-	-	*6
	S	<LABELNAME>.S			
	N	-			
RETENTIVE TIMER	C	<LABELNAME>.C	-	-	*6
	S	<LABELNAME>.S			
	N	-			
COUNTER	C	<LABELNAME>.C	-	-	*6
	S	<LABELNAME>.S			
	N	-			
LTIMER	C	<LABELNAME>.C	-	-	*7
	S	<LABELNAME>.S			
	N	-			
LRETENTIVE TIMER	C	<LABELNAME>.C	-	-	*7
	S	<LABELNAME>.S			
	N	-			
LCOUNTER	C	<LABELNAME>.C	-	-	*7
	S	<LABELNAME>.S			
	N	-			

*1 <LABELNAME>: 構造体の場合、構造体名を含んだ LABELNAME になります。LABELNAME の最大文字数は区切り記号、アドレスを含めて 255 文字です。

例) BOOL type single Label: "BOOLVAR"
 BOOL array element: "BOOLARRAY[0012]"
 INT type single Label: "INTVAR"
 DINT type bit address: "DINTVAR.30"
 REAL type 3D array: "REALARRAY[1,2,3]"
 INT member of a structure ("TIMER"): "TIMERVER.N"
 STRING type variable: "MYSTRINGVAR"

以下の入力規則が LABELNAME とメンバ名に適用されます。

- 最大文字数は半角英数字で 255 文字です。
 - 英数字 (大文字、小文字)、アンダーバー、2 バイト文字 (漢字など) が使用できます。
 - 先頭文字に数字を入力することはできません。
 - 先頭文字に次の文字列を使用することはできません。
 LS, USR, SCR, PRT
 - !"#\$%&+.,/:;<=>@[\\]^`{|}~およびスペースは使用できません。
 - データタイプを使用することはできません。("WORD"、"BOOL"、"ARRAY" など)
 - ラベル名では、大文字と小文字は区別されません。
 - IEC 命令で予約されている名称は使用できません。(*)
 - MELSEC で定義されているデバイス名は使用できません。(*)
 - メーカーで定義済みの FB/FUN 名および MELSEC 命令名は使用できません。(*)
- * これらの名称は GP-Pro EX のエラーチェックで検出できません。使用した場合、通信エラーが発生します。接続機器で使用している名称については接続機器のマニュアルを参照してください。

*2 各次元の要素数を l (最小要素数) から h (最大要素数) で表示しています。

- *3 ラベルに定義した配列の要素番号は 0 から始めてください。
配列のサイズは各次元の要素数で計算できます。
例) ワード配列「Array[0...15, 0...14, 0...13]」の場合、配列のサイズは 3360(=16×15×14) です。
各デバイスの最大サイズは次の通りです。
BOOL, INT, WORD, TIMER, COUNTER, RETENTIVETIMER : 2147483648
DINT, DWORD, LTIMER, LCOUNTER, LRETENTIVETIMER, TIME : 1073741824
STRING : 2147483648÷STRING デバイスのサイズ
- *4 システムデータエリアは初期値で 16 ワード分の項目が選択されています。16 ワード分以下の項目を選択する場合、16 ワード以上の配列のタグをシステムデータエリアに割り付けた後に必要な項目を選択してください。
- *5 STRING のラベルはデータタイプの設定で最大文字数 (255 文字以内) を定義します。
- *6 C (コイル) と S (接点) は BOOL 型デバイスです。N (現在値) は WORD 型デバイスです。
- *7 C (コイル) と S (接点) は BOOL 型デバイスです。N (現在値) は DWORD 型デバイスです。

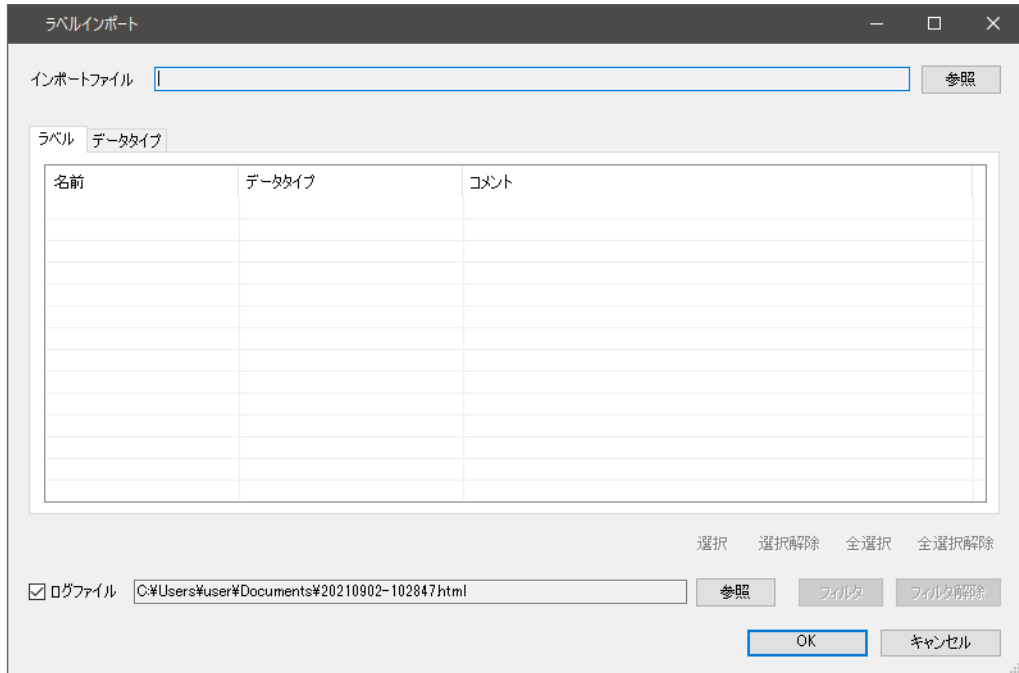
重要

- タグを使用する場合、ラベルデータ (シンボルアドレス) をインポートする必要があります。
インポート手順については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「接続機器のタグを使用したい」
- CPU が R00CPU/R01CPU/R02CPU の場合、ラベルデータ (シンボルアドレス) はインポートできません。
- タグインポート機能は GP-Pro EX V3.01.000 以降 (ただし GP-4*01TM の場合は V3.10.000 以降) でサポートしています。

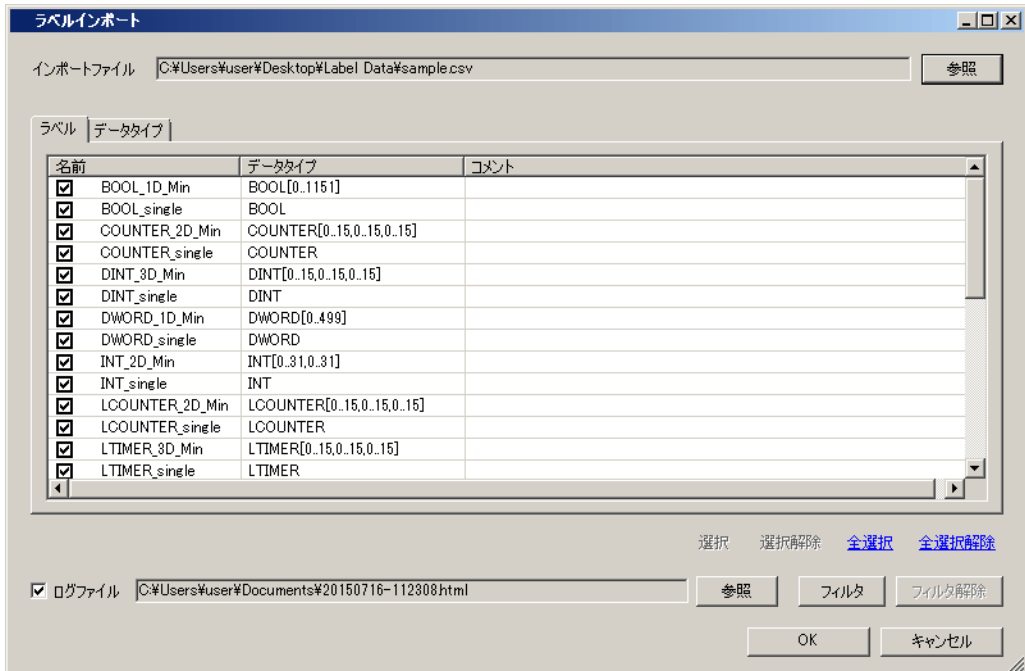
MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」
- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
☞「表記のルール」

4 [インポート] をクリックします。

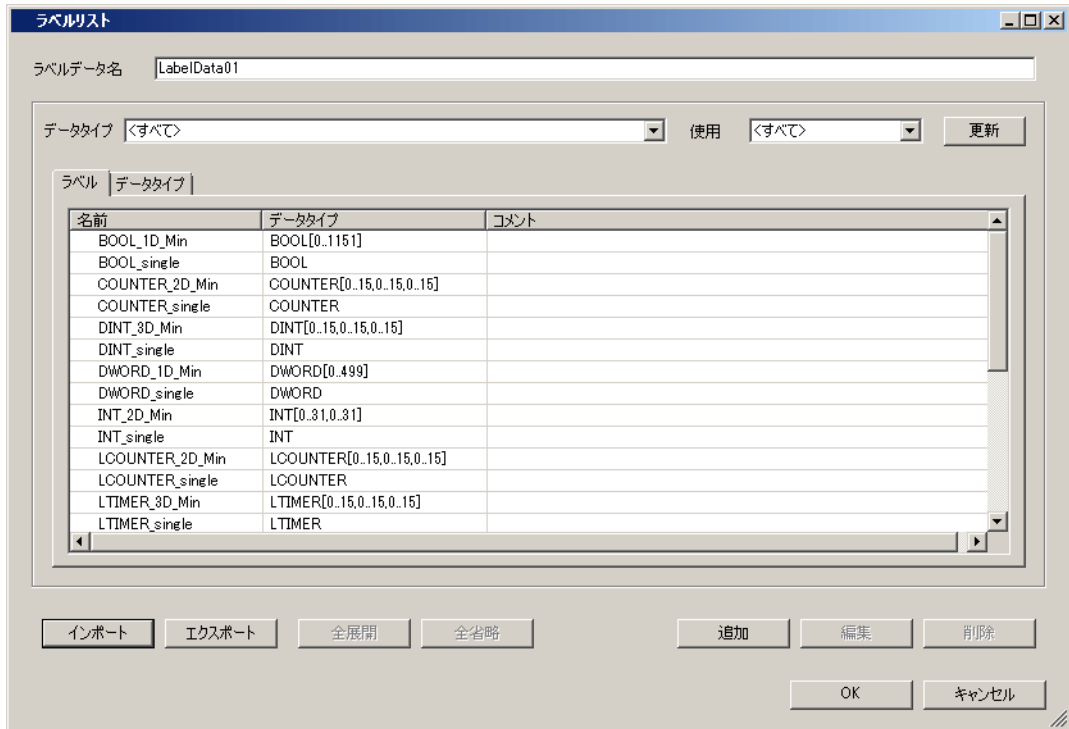


5 [インポートファイル] の [参照] をクリックし、CSV ファイルを選択します。


**重要**

- ラベルデータはプログラミングソフト (MELSOFT GX Works 3) から出力してください。GP-Pro EX にインポートできるラベルデータは「グローバルラベルファイル」、「ユーザー定義データ構造ファイル」、「モジュール定義データ構造ファイル」です。
- インポートするラベルデータは同じフォルダに入れてください。インポート時に GP-Pro EX で指定するラベルデータは「グローバルラベルファイル」ですが、同じフォルダ内にある「ユーザー定義データ構造ファイル」と「モジュール定義データ構造ファイル」も合わせてインポートされます。

6 インポートするラベルにチェックを付け、[OK] をクリックします。



5.4 MELSEC iQ-F シリーズ


 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
入力リレー	X0000 ~ X1777	X0000 ~ X1760	[L/H]	 *1
出力リレー	Y0000 ~ Y1777	Y0000 ~ Y1760		 *1
内部リレー	M00000 ~ M32767	M00000 ~ M32752		
特殊リレー	SM0000 ~ SM9999	SM0000 ~ SM9984		
保持リレー	L00000 ~ L32767	L00000 ~ L32752		
アナンシェータ	F00000 ~ F32767	F00000 ~ F32752		
ステップリレー	S0000 ~ S4095	S0000 ~ S4080		
リンクリレー	B0000 ~ B7FFF	B0000 ~ B7FF0		
特殊リンクリレー	SB0000 ~ SB7FFF	SB0000 ~ SB7FF0		
タイマ (接点)	TS0000 ~ TS1023	-		
タイマ (コイル)	TC0000 ~ TC1023	-		
積算タイマ (接点)	SS0000 ~ SS1023	-		
積算タイマ (コイル)	SC0000 ~ SC1023	-		
カウンタ (接点)	CS0000 ~ CS1023	-		
カウンタ (コイル)	CC0000 ~ CC1023	-		
ロングカウンタ (接点)	L_CS0000 ~ L_CS1023	-		
ロングカウンタ (コイル)	L_CC0000 ~ L_CC1023	-		
タイマ (現在値)	-	TN0000 ~ TN1023		
積算タイマ (現在値)	-	SN0000 ~ SN1023		
カウンタ (現在値)	-	CN0000 ~ CN1023		
ロングカウンタ (現在値)	-	L_CN0000 ~ L_CN1023		
データレジスタ	-	 D0000 ~ D7999	 *2	
特殊レジスタ	-	SD00000 ~ SD11999	 *2	
リンクレジスタ	-	W0000 ~ W7FFF	 *2	
特殊リンクレジスタ	-	SW0000 ~ SW7FFF	 *2	
ユニットアクセス デバイス	-	U000-G00000 ~ U1FF-G65535	 *2 *3	
ファイルレジスタ	-	R00000 ~ R32767	 *2	

*1 ワードアドレスは 20(8 進数) で割り切れる値のみ指定できます。

例: X0000、X0020、X0040・・・X1760

*2 ビット指定時のアクセス方法は [機器設定] の [ワードアドレス内のその他のビットデータ] の設定により異なります。

[クリアする] 

[クリアしない] ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*3 SLMP と互換性のあるデバイスやインテリジェント機能ユニットのバッファメモリにアクセスできるデバイスです。アドレスの最初の 3 桁はインテリジェントモジュールの開始 I/O 番号を指定します。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

6 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードは、データ表示器などのアドレスタイプで「デバイス&アドレス」を設定している場合に使用します。

MEMO

・ ラベルを使用する場合はデバイスコードとアドレスコードは使用できません。

6.1 MELSEC iQ-R シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0x0080	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/X	0x0180	
	2/X	0x0280	
	3/X	0x0380	
	4/X	0x0480	
出力リレー	Y	0x0081	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/Y	0x0181	
	2/Y	0x0281	
	3/Y	0x0381	
	4/Y	0x0481	
内部リレー	M	0x0082	ワードアドレス ÷16 の値
	1/M	0x0182	
	2/M	0x0282	
	3/M	0x0382	
	4/M	0x0482	
特殊リレー	SM	0x0083	ワードアドレス ÷16 の値
	1/SM	0x0183	
	2/SM	0x0283	
	3/SM	0x0383	
	4/SM	0x0483	
保持リレー	L	0x0084	ワードアドレス ÷16 の値
	1/L	0x0184	
	2/L	0x0284	
	3/L	0x0384	
	4/L	0x0484	
アナンシェータ	F	0x0085	ワードアドレス ÷16 の値
	1/F	0x0185	
	2/F	0x0285	
	3/F	0x0385	
	4/F	0x0485	

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
エッジリレー	V	0x0086	ワードアドレス ÷16 の値
	1/V	0x0186	
	2/V	0x0286	
	3/V	0x0386	
	4/V	0x0486	
リンクリレー	B	0x0088	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/B	0x0188	
	2/B	0x0288	
	3/B	0x0388	
	4/B	0x0488	
特殊リンクリレー	SB	0x0089	ワードアドレス ÷0x10 の値
	1/SB	0x0189	
	2/SB	0x0289	
	3/SB	0x0389	
	4/SB	0x0489	
タイマ (現在値)	TN	0x0060	ワードアドレス
	1/TN	0x0160	
	2/TN	0x0260	
	3/TN	0x0360	
	4/TN	0x0460	
積算タイマ (現在値)	SN	0x0062	ワードアドレス
	1/SN	0x0162	
	2/SN	0x0262	
	3/SN	0x0362	
	4/SN	0x0462	
ロングタイマ (現在値)	L_TN	0x0063	ワードアドレス
	1/L_TN	0x0163	
	2/L_TN	0x0263	
	3/L_TN	0x0363	
	4/L_TN	0x0463	
ロング積算タイマ (現在値)	L_SN	0x0064	ワードアドレス
	1/L_SN	0x0164	
	2/L_SN	0x0264	
	3/L_SN	0x0364	
	4/L_SN	0x0464	
カウンタ (現在値)	CN	0x0061	ワードアドレス
	1/CN	0x0161	
	2/CN	0x0261	
	3/CN	0x0361	
	4/CN	0x0461	

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
ロングカウンタ (現在値)	L_CN	0x0065	ワードアドレス
	1/L_CN	0x0165	
	2/L_CN	0x0265	
	3/L_CN	0x0365	
	4/L_CN	0x0465	
データレジスタ	D	0x0000	ワードアドレス
	1/D	0x0100	
	2/D	0x0200	
	3/D	0x0300	
	4/D	0x0400	
特殊レジスタ	SD	0x0001	ワードアドレス
	1/SD	0x0101	
	2/SD	0x0201	
	3/SD	0x0301	
	4/SD	0x0401	
リンクレジスタ	W	0x0002	ワードアドレス
	1/W	0x0102	
	2/W	0x0202	
	3/W	0x0302	
	4/W	0x0402	
特殊リンクレジスタ	SW	0x0003	ワードアドレス
	1/SW	0x0103	
	2/SW	0x0203	
	3/SW	0x0303	
	4/SW	0x0403	
リンク入力	Jn-X	0x0170 ~ 0xFF70	ワードアドレス =0x10 の値 ^{*1}
リンク出力	Jn-Y	0x0171 ~ 0xFF71	ワードアドレス =0x10 の値 ^{*1}
リンクリレー	Jn-B	0x0172 ~ 0xFF72	ワードアドレス =0x10 の値 ^{*1}
リンク特殊リレー	Jn-SB	0x0173 ~ 0xFF73	ワードアドレス =0x10 の値 ^{*1}
リンクレジスタ	Jn-W	0x0174 ~ 0xFF74	ワードアドレス ^{*1}
リンク特殊レジスタ	Jn-SW	0x0175 ~ 0xFF75	ワードアドレス ^{*1}
ユニットアクセスデバイス	U000-G ~ U1FF-G	0x0076 ~ 0x1F76	ワードアドレス ^{*2}
CPU バッファメモリアクセス デバイス	U3En-G	0x3E76	ワードアドレス
CPU バッファメモリ (定周期通信エリア)	U3En-HG	0x3E78	ワードアドレス
ファイルレジスタ (通常)	R	0x000F	ワードアドレス
	1/R	0x010F	
	2/R	0x020F	
	3/R	0x030F	
	4/R	0x040F	

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード	
ファイルレジスタ (連番)	ZR	0x000E	ワードアドレス	
	1/ZR	0x010E		
	2/ZR	0x020E		
	3/ZR	0x030E		
	4/ZR	0x040E		
ファイルレジスタ (0R ~ 31R)	0R	0x0010	ワードアドレス	
	1/0R	0x0110		
	2/0R	0x0210		
	3/0R	0x0310		
	4/0R	0x0410		
	1R	0x0011	ワードアドレス	
	1/1R	0x0111		
	2/1R	0x0211		
	3/1R	0x0311		
	4/1R	0x0411		
	2R	0x0012	ワードアドレス	
	1/2R	0x0112		
	2/2R	0x0212		
	3/2R	0x0312		
	4/2R	0x0412		
	:	:		
	29R	0x002D	ワードアドレス	
	1/29R	0x012D		
	2/29R	0x022D		
	3/29R	0x032D		
	4/29R	0x042D		
	30R	0x002E	ワードアドレス	
	1/30R	0x012E		
	2/30R	0x022E		
	3/30R	0x032E		
	4/30R	0x042E		
	31R	0x002F	ワードアドレス	
	1/31R	0x012F		
	2/31R	0x022F		
	3/31R	0x032F		
	4/31R	0x042F		

*1 ネットワーク番号はデバイスコードの上位バイトです。

*2 デバイス名のコードはデバイスコードとアドレス部の 28 ~ 31 ビットめの値で指定されます。
たとえば U1FF-G の場合、デバイスコードを「0x1F76」、アドレス部の 28 ~ 31 ビットめを「F」に設定します。

6.2 MELSEC iQ-F シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
入力リレー	X	0x0080	ワードアドレス ÷20 (8 進数) の値
出力リレー	Y	0x0081	ワードアドレス ÷20 (8 進数) の値
内部リレー	M	0x0082	ワードアドレス ÷16 の値
特殊リレー	SM	0x0083	ワードアドレス ÷16 の値
保持リレー	L	0x0084	ワードアドレス ÷16 の値
アナンシェータ	F	0x0085	ワードアドレス ÷16 の値
ステップリレー	S	0x0087	ワードアドレス ÷16 の値
リンクリレー	B	0x0088	ワードアドレス ÷0x10 の値
特殊リンクリレー	SB	0x0089	ワードアドレス ÷0x10 の値
タイマ (現在値)	TN	0x0060	ワードアドレス
積算タイマ (現在値)	SN	0x0062	ワードアドレス
カウンタ (現在値)	CN	0x0061	ワードアドレス
ロングカウンタ (現在値)	L_CN	0x0065	ワードアドレス
データレジスタ	D	0x0000	ワードアドレス
特殊レジスタ	SD	0x0001	ワードアドレス
リンクレジスタ	W	0x0002	ワードアドレス
特殊リンクレジスタ	SW	0x0003	ワードアドレス
ユニットアクセスデバイス	U000-G ~ U1FF-G	0x0076 ~ 0x1F76	ワードアドレス*1
ファイルレジスタ	R	0x000F	ワードアドレス

*1 デバイス名のコードはデバイスコードとアドレス部の 28 ~ 31 ビットめの値で指定されます。
たとえば U1FF-G の場合、デバイスコードを「0x1F76」、アドレス部の 28 ~ 31 ビットめを「F」に
設定します。

7 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	<p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 デバイスアドレスは「アドレス:デバイスアドレス」のように表示されます。 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:2[02H])」

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。

■ 接続機器特有のエラーメッセージ

エラー番号	エラーメッセージ	内容
RHxx133	(接続機器名): リモートパスワードに誤りがある (エラーコード:[Hex]).	パスワードが誤っているためロック解除に失敗しました。
RHxx134	(接続機器名): リモートパスワード: 不正なフォーマット.	不正なパスワード形式です。

MEMO

- リモートパスワードに関するエラーが発生した場合、リトライ回数の設定に関わらず通信が停止します。GP-Pro EX またはオフライン画面でリモートパスワードを設定し直してください。